

南国病院広報誌

第35号 2018年1月31日発行



つくし



日本医療機能評価機構認定病院
初回認定 2011年8月5日
3rdG: Ver.1.1 更新認定
主たる機能: 慢性期病院
副機能: 精神科病院

■発行元■

南国市大涌甲 1479 番地 3
医療法人つくし会 南国病院
Tel (代) 088-864-3137
Fax 088-863-3070
<http://www.nankoku-hp.or.jp>



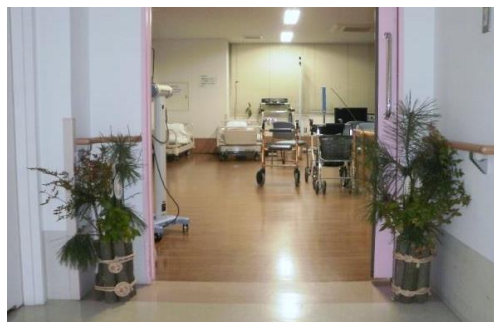
新年のご挨拶

医療法人つくし会 理事長
南国病院 院長 中澤 宏之

関係機関の皆様、職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。新たな年を迎え一言ご挨拶を申し上げます。平成30年度は診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬のいわゆるトリプル改定の実施、平成28年12月に策定された高知県地域医療構想を盛り込んだ第7期高知県保健医療計画と第7期介護保険事業（支援）計画の策定など、医療、介護分野において様々な制度の変革が同時に行われる節目の年となります。高知県においては進行する人口減少や少子高齢化の状況下で、医療・介護資源が集中する中央医療圏と絶対的に不足している中山間地や過疎地において、病床の機能分化や連携、縮小や集約、他のサービスによる補完などの具体的な協議が進んでいくと思いますが、医療現場に負担をかけず、医療・介護難民を出さずにいかにバランスのとれた医療提供体制を築けるか、地域包括ケアシステムの構築に貢献できるかは、地域の実情を理解している我々民間病院の役割が大きいと感じております。高知県においては全就業者に占める医療・福祉就業者の割合が高く、今後検討が進む働き方改革が医療分野にも大きく影響してきます。人員や就業時間の議論だけではかえって医療費の増大やこれまで維持してきた地域医療の崩壊を招きかねません。むしろやりがいや将来の希望が持てる職場環境づくり、病院経営が大切であり、平成30年度もそれを意識した事業計画を立てようと思っています。

既にご案内しておりますが、非常勤医師であった速瀬啓純先生、麻植啓輔先生が、それぞれ平成29年7月、8月より常勤医師として勤務して下さることとなりました。お二人とも専門は消化器内科であり、当院の役割である神経内科、精神科に加えて、今後は消化器内科・内科の専門的診療や身体合併症を持つ神経・精神疾患の診療を充実させていきますので、ご利用いただければ幸いです。

この広報誌「つくし」を院外発送させて頂くようになって丁度1年が経ちました。当院の診療機能や職場の雰囲気が少しでも伝わり、当院を身近な存在に感じて頂ければと思っておりますが、広報誌を含め何かご意見がございましたらお気軽にお寄せ下さい。この一年が皆様にとりまして、素晴らしい年になりますよう祈念するとともに、本年もご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。



「門松」

通所リハビリテーション利用者さん作製

第41回 中国・四国精神保健学会 精神科医療のこれから

—中国・四国からの発信—

あわぎんホール H29.11.23・24(木・金)

「当院の開放病棟における
長期入院患者への退院促進を考える」
5病棟看護師 前田 春樹



平成29年11月23～24日に開催された「第41回中国・四国精神保健学会」に参加させていただきました。中・四国精神保健学会の発表は初めてで、とても緊張しましたが無事発表を終える事ができ、良い経験、勉強になりました。

他施設の発表で、印象に残った発表が2つありました。難治性褥瘡患者に対するアルギニン栄養補助飲料の使用経験の発表で、アルギニン2500mg配合の栄養補助飲料を付加したところ、2ヶ月後には褥瘡と生化学データが改善したとのこと。褥瘡対策委員会によるスキンケア、看護部による除圧、NSTの3本が揃うことで褥瘡が完治したというこの事例は、当院でも褥瘡患者さんのために役立つのではと思いました。

また、アパート体験利用事業を通じた地域移行への意欲喚起についての発表では、当院と同じ社会的入院により退院できない、独りで暮らす自信がないという事から地域移行に向けた意欲・関心がそがれているケースに対し、自立支援協議会や精神保健福祉協議会と連携し定額の賃貸物件を借り上げ、地域生活の体験を行なっている事業の事例でした。病院だけでなく地域とも連携し、見学や体験を積ませることは入院患者にとってとても良い経験になり自信にもつながり社会に溶け込みやすいと感じました。当院でも地域と連携はしていますが、アパートの賃貸物件借り上げなどを行なうことができれば、退院促進が今よりもスムーズに行えるのではと感じました。

色々な発表を聞きとても参考になった学会となりました。

次は高知での発表です。緊張せず、頑張りたいと思います。

第12回 医療の質・安全学会学術集会 「医療の質と安全を支えるコミュニケーション」

幕張メッセ国際会議場 H29.11.25・26(土・日)

医療安全対策室 医療安全管理者 看護師長 大黒 千明
臨床工学技士 森本 直樹

第12回 医療の質・安全学会学術集会へ参加して

平成29年11月25日(土)・26日(日)の両日、幕張メッセ国際会議場(千葉県)で開催された「第12回 医療の質・安全学会学術集会」へ参加して来ました。

大会長講演、シンポジウム(9題)特別講演(2題)教育セミナー(12題)パネルディスカッション(16題)教育講演(1題)一般口演(37題)、ポスター展示(220題)と医療の質や安全について医師をはじめ薬剤師、看護師、コメディカルそして医療関係大学や学校の先生など幅広い方からの発表や報告がありました。どの発表をチョイスするか迷うほど多くの演題があり、注目度が高い演題では参加者が多数で入れない会場もありました。

当院でのインシデント報告件数が一番多く、改善・対応に苦慮している「転倒・転落」のシンポジウムと、安全文化の醸成と継続についての「医療安全教育」のシンポジウムでは、患者さんや家族を含めたチームで取り組むことと、チーム医療で重要なテクニカルスキルやコミュニケーションに関する研修が有効であることを再確認できました。

また、テーマとして取り上げられる事が少ない長時間労働や36協定についての講演やリーダーシップの講演など、「医療の質・安全学会」ならではの講演もあり新鮮かつ有意義な学びとなりました。

講演や演題のみならずたくさんのポスター展示もあり「医療の質・安全」について最新の情報や傾向を知る事ができた2日間でした。今後の医療安全活動に活かしていきたいと思います。

今回は2名で参加させていただきましたが、今学会は講演や演題が数多く、たくさんのことを吸収するためにも、来年からは診療、看護、事務など各部門からそれぞれ選出し多職種チームで参加できればと思います。